

(様式第 10)

宮 第 医 医 第 264 号  
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人宮崎大学長  
池ノ上

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	電話 ( 0985 ) 85 - 1510
--------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ① 循環器内科 ② 腎臓内科 ③ 消化器内科 ④ 血液内科 ⑤ 腫瘍内科 ⑥ 神経内科 ⑦ 感染症内科 ⑧ 呼吸器内科 ⑨ 内分泌・代謝・糖尿病内科 ⑩ リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ① 心臓血管外科 ② 消化器外科 ③ 形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
---

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ① 歯科口腔外科・矯正歯科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3	4	5	6		
7	8	9	10	11	12

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	596床	632床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	222人	213人	393.2人	看護補助者	62人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	11人	16人	理学療法士	16人	臨床検査技師	49人
薬 剤 師	31人	0人	31人	作業療法士	6人	衛生検査技師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	13人	その他	0人
助産師	27人	4人	29.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	590人	59人	631.1人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	46人
歯科衛生士	2人	6人	6.6人	歯科技工士	1人	事務職員	114人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	32人	その他の職員	29人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	21人	眼科専門医	12人
外科専門医	25人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	24人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	27人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	10人
		合 計	214人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(鮫島 浩) 任命年月日 平成28年4月1日

平成24年4月1日～平成25年9月30日 (医療安全管理委員会委員)  
 平成25年10月1日～平成26年3月31日 (医療安全管理委員会委員長)  
 平成26年4月1日～現在 (医療安全管理委員会委員)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	504.4人	11.6人	516.0人
1日当たり平均外来患者数	970.1人	87.8人	1057.9人
1日当たり平均調剤数	2112.8剤		
必要医師数	111.5人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	27人		
必要(准)看護師数	296人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	414.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 薬剤管理指導室					
化学検査室	334 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置(TBA2000FR, c16000)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動化学発光免疫測定装置(i2000SR, cobas8000, i1000, e411)			
細菌検査室	87.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室			
病理検査室	68.5m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、TinPrep、Fish装置、パラフィン包埋作製装置、遠心分離機、マイクローム、ドラフト装置、セーフティキャビネット、恒温器、伸展器、温浴器、純粋製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、			
病理解剖室	52.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ストレッチャー、ホルマリン希釈装置、ホルマリン排気バケツBOX、セーフティラック、解剖用骨切断鋸装置、パソコン(CUMNAVI用)、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚、			
研究室	2650 m <sup>2</sup>		(主な設備) パソコン、書庫、机 ほか			
講義室	553 m <sup>2</sup>		室数	2室	収容定員	475人
図書室	1908 m <sup>2</sup>		室数	6室	蔵書数	126,009冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	91.6%	逆紹介率	67.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数			9,993人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,191人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,138人
	D: 初診の患者の数			12,148人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院	○	医療安全管理識見者	有・ <del>無</del>	1
大久保 哲	宮崎産業経営大学		法律に関する識見者	有・ <del>無</del>	1
藤久保亜希			医療を受ける者	有・ <del>無</del>	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<del>有</del> ・無
委員の選定理由の公表の有無	<del>有</del> ・無
公表の方法 本院HPに掲載	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
末梢血単核球移植による血管再生治療	0人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	29人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微少残存病変(MRD)量の測定	0人
難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェシレス療法	0人
FDGを用いたポジロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	2人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	慢性閉塞性肺疾患の運動耐容能改善効果の評価	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性呼吸不全を来した患者を対象にペプチドホルモングレリンを3週間にわたって点滴静注し(1日2回投与)、運動耐容能の改善、食欲、体重増加を評価する。			
医療技術名	慢性下気道感染症に対するグレリン投与	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性下気道感染症のため体重減少を来し、喀痰の多い患者を対象にペプチドホルモングレリンを2週間にわたってし、(1日2回投与)プラセボ投与群と比較して、喀痰量の減少、体重の増加を評価する。			
医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 尋常性ざ瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	酒查皮に対する色素レーザー療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 酒查皮に対し、レーザー療法を行う。			



医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	102人
当該医療技術の概要 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			
医療技術名	中耳真珠腫に対する前鼓室開放術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 中耳真珠腫の術後再発予防策としての追加術式。			
医療技術名	骨導インプラント	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 先天性外耳道閉鎖症患者2例に対し、Baha Attract 及びBone bridge植込み術を行った。両Deviceとも、従来のBahaの欠点であるインプラントの体表露出がないように改良されている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	61
2	筋萎縮性側索硬化症	13	特発性拡張型心筋症	25
3	脊髄性筋萎縮症	2	肥大型心筋症	15
4	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	1	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	72	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	3	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	5	特発性血小板減少性紫斑病	19
9	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	57	IgA 腎症	7
12	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	36	黄色靱帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	21	後縦靱帯骨化症	66
15	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	1	特発性大腿骨頭壊死症	73
17	多系統萎縮症	13	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	18	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	10	下垂体性PRL分泌亢進症	42
20	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	7	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	15	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	26
23	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	115
24	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	4	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	5	アジソン病	2
29	ウルリツヒ病	84	サルコイドーシス	73
30	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	18
31	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	24
32	自己食空腔性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓性肺高血圧症	9
34	神経線維腫症	24	リンパ管筋腫症	1
35	天疱瘡	22	網膜色素変性症	17
36	表皮水疱症	1	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	原発性胆汁性肝硬変	23
39	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	12	自己免疫性肝炎	10
41	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	190
42	結節性多発動脈炎	14	潰瘍性大腸炎	263
43	顕微鏡的多発血管炎	24	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	3	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャヤー病	3	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	OFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	154	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	65	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	59	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	23	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	30	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	10	非典型型溶血性尿毒毒症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	2	ブラウ症候群	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
111	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡		
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5	
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166	166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	1	167	167	マルファン症候群
118	脊髄髄膜瘤	1	168	168	エーラス・ダンロス症候群
119	アイザックス症候群	169	169	169	メンケス病
120	遺伝性ジストニア	1	170	170	オクシピタル・ホーン症候群
121	神経フェリチン症	171	171	171	ウィルソン病
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	172	低ホスファターゼ症
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	173	173	VATER症候群
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	174	那須・ハコラ病
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	175	175	ウィーバー症候群
126	ペリー症候群	176	176	176	コフィン・ローリー症候群
127	前頭側頭葉変性症	1	177	177	有馬症候群
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	178	178	モワット・ウィルソン症候群
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	179	179	ウィリアムズ症候群
130	先天性無痛無汗症	1	180	180	ATR-X症候群
131	アレキサンダー病	1	181	181	クルーゾン症候群
132	先天性核上性球麻痺	182	182	182	アペール症候群
133	メビウス症候群	183	183	183	ファイファー症候群
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	184	184	アントレー・ビクスラー症候群
135	アイカルディ症候群	185	185	185	コフィン・シリス症候群
136	片側巨脳症	186	186	186	ロスマンド・トムソン症候群
137	限局性皮質異形成	187	187	187	歌舞伎症候群
138	神経細胞移動異常症	188	188	188	多脾症候群
139	先天性大脳白質形成不全症	189	189	189	無脾症候群
140	ドラベ症候群	190	190	190	鰓耳腎症候群
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	191	191	ウェルナー症候群
142	ミオクロニー欠伸てんかん	192	192	192	コケイン症候群
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	193	193	ブラダー・ウィリ症候群
144	レノックス・ガストー症候群	194	194	194	ソトス症候群
145	ウエスト症候群	195	195	195	ヌーナン症候群
146	大田原症候群	196	196	196	ヤング・シン普森症候群
147	早期ミオクロニー脳症	197	197	197	1p36欠失症候群
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	198	198	4p欠失症候群
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	199	199	5p欠失症候群
150	環状20番染色体症候群	200	200	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群
151	ラスマッセン脳炎	201	201	201	アンジェルマン症候群
152	PCDH19関連症候群	202	202	202	スミス・マギニス症候群
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎	203	203	203	22q11.2欠失症候群
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	204	204	エマヌエル症候群
155	ランドウ・クレフナー症候群	205	205	205	脆弱X症候群関連疾患
156	レット症候群	206	206	206	脆弱X症候群
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	207	総動脈幹遺残症
158	結節性硬化症	208	208	208	修正大血管転位症
159	色素性乾皮症	1	209	209	完全大血管転位症
160	先天性魚鱗癬	210	210	210	単心室症

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	2	263	脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	13	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名			疾患名	
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ データ提出加算2
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 退院支援加算2
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・ 精神疾患診療体制加算
・ 特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)及び注4に係る加算(重度認知症加算)	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 救命救急入院料2
・ 医師事務作業補助体制加算1(75対1)	・ 特定集中治療室管理料2及び注2に係る加算(小児加算)
・ 急性期看護補助体制加算(50対1)	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(1母胎胎児集中治療室管理料)
・ 看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(2新生児集中治療室管理料)
・ 看護補助加算2	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 療養環境加算	・ 小児入院医療管理料2及び注2に係る加算(プレイルーム加算)
・ 重症者等療養環境特別加算	
・ 無菌治療室管理加算1	
・ 無菌治療室管理加算2	
・ 緩和ケア診療加算	
・ 精神科身体合併症管理加算	
・ 精神科リエゾンチーム加算	
・ 摂食障害入院医療管理加算	
・ 医療安全対策加算1	
・ 感染防止対策加算1及び注2に係る加算(感染防止対策地域加算)	
・ 患者サポート体制充実加算	
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ ハイリスク妊娠管理加算	
・ ハイリスク分娩管理加算	
・ 病棟薬剤業務実施加算1	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料	・ 補聴器適合検査
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ ロービジョン検査判断料
・ がん患者指導管理料1	・ コンタクトレンズ検査料1
・ がん患者指導管理料2	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん患者指導管理料3	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ 外来緩和ケア管理料	・ 有床義歯咀嚼機能検査
・ 外来放射線照射診療料	・ 画像診断管理加算2
・ ニコチン依存症管理料	・ ポジトロン断層
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ がん治療連携計画策定料	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 薬剤管理指導料	・ 外傷全身CT加算
・ 医療機器安全管理料1	・ 大腸CT撮影加算
・ 医療機器安全管理料2	・ 心臓MRI撮影加算
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 乳房MRI撮影加算
・ 歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 外来化学療法加算1
・ 遺伝学的検査	・ 無菌製剤処理科
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 検体検査管理加算(Ⅳ)	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 国際標準検査管理加算	・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 胎児心エコー法	・ がん患者リハビリテーション料
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ ヘッドアップティルト試験	・ 救急患者精神科継続支援料
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 医療保護入院等診療料
・ 神経学的検査	・ 硬膜外自家血注入

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 透析液水質確保加算1	・ 生体腎移植術
・ 手術用顕微鏡加算	・ 膀胱水圧拡張術
・ う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ CAD/CAM冠	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 手術時歯根面レーザー応用加算	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 歯科技工加算1及び2	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 輸血管理料 I
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・ 輸血適正使用加算
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 網膜再建術	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 歯根端切除手術の注3
・ 人工中耳用材料	・ 麻酔管理料(I)
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ 麻酔管理料(II)
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・ 放射線治療専任加算
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・ 外来放射線治療加算
・ 経皮的中心隔心筋焼灼術	・ 高エネルギー放射線治療
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・ 定位放射線治療
・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 体外衝撃波胆石破砕術	・ 保険医療機関間の連携による病理診断
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 病理診断管理加算2
・ 体外衝撃波膀胱石破砕術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・ 歯科矯正診断料
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・歯根端切除術の注3	・
・CAD/CAM冠	・
・有床義歯咀嚼機能検査	・
・硬膜外自家血注入	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会(CPC):26回(院内・院外死亡例CPC開催数) 骨髄カンファレンス:週に1回、 神経放射線・病理カンファレンス:週に2回、 泌尿器病理カンファレンス:2週に1回、 胎盤肉眼検討会:週に1回、 婦人科病理カンファレンス:週に1回、 頭頸部カンファレンス:2週に1回
剖検の状況	剖検症例数 18 例 / 267 剖検率 7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心不全・動脈瘤の発症/進展におけるオステオプロテグリンの関与	鶴田 敏博	循環器内科	1,430,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
アタ心房組織に存在する新規循環調節ペプチドの系統的探索	北村 和雄	循環器内科	1,300,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
ビッグアンジオテンシン-25の測定意義と組織アンジオテンシンII生成機構の解明	永田 さやか	循環器内科	1,430,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
Big angiotensin-25の生体内での役割と診断薬としての可能性	北村 和雄	循環器内科	3,380,000	補 委 科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
我が国で発見された生理活性ペプチド“アドレノメデュリン”の医薬品としての研究開発	北村 和雄	循環器内科	58,786,000	補 委 国立研究開発法人科学技術振興機構
アドレノメデュリンのトランスレーショナルリサーチ	北村 和雄	循環器内科	1,200,000	補 委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	北村 和雄	循環器内科	200,300,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖尿病性腎症における尿中mRNAの早期診断マーカーとしての有用性の検討	福田 顕弘	腎臓内科	1,560,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
難治性腎疾患に関する調査研究	藤元 昭一	腎臓内科	300,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
難治性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	腎臓内科	250,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
今後の慢性腎臓病(CKD)対策のあり方に関する研究	藤元 昭一	腎臓内科	450,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
保存期慢性腎臓病患者を対象とした臨床研究-ダルベポエチンアルファ製剤低反応に関する検討-(BRIGHTEN)	藤元 昭一	腎臓内科	216,000	補 委 公益財団法人先端医療振興財団
宮崎県健康診断尿潜血陽性者中の診断スコア法の検証研究	藤元 昭一	腎臓内科	1,000,000	補 委 学校法人順天堂 順天堂大学
CKD疫学調査	藤元 昭一	腎臓内科	1,100,000	補 委 国立大学法人筑波大学
TET2変異による造血器腫瘍の発症と進展メカニズムの解明	下田 和哉	血液内科	1,170,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)

小計 15件

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨髄増殖性腫瘍における重複遺伝子異常の意義及び急性転化メカニズムの解明	亀田 拓郎	血液内科	1,950,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
CALRが関わる造血シグナル伝達と、その破綻による骨髄増殖性腫瘍発症機序の解明	幣 光太郎	血液内科	1,690,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
白血病幹細胞の代謝プログラミングを標的とした治療法の開発	斎藤 祐介	血液内科	1,950,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
正常造血及びMPN発症におけるCalreticulinの役割解明	幣 光太郎	血液内科	390,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	下田 和哉	血液内科	350,000	(補) 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
成人T細胞白血病リンパ腫に対する新規テーラーメイド治療	下田 和哉	血液内科	5,000,000	(補) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明	下田 和哉	血液内科	20,399,999	(補) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
正常造血及びMPN発症におけるCalreticulinの役割解明	北中 明	旧第二内科	1,690,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
慢性砒素中毒が神経系に与える影響の研究	望月 仁志	神経内科	2,080,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
がん特異的プロテアーゼによる尿中シェディング産物を応用した肺腺癌早期診断法の確立	松元 信弘	呼吸器内科	1,430,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肺癌におけるグレリンの分子生物学的意義と緩和期肺癌患者へのグレリン投与の検討	飯干 宏俊	呼吸器内科	1,430,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
新規生理活性ペプチドの固定と摂食調節機序の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	6,500,000	(補) 科学研究費補助金(文部科学省)
細胞老化と細胞骨格調節機構から紐解く肺線維症発症機序の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	2,080,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	150,000	(補) 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
新規グラニン由来ペプチドNERP-4の摂食エネルギー・糖代謝機能の検討	山口 秀樹	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,560,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
高脂肪食による神経の炎症から肥満を来す機序の解析	迫田 秀之	内分泌・代謝・糖尿病内科	2,080,000	(補) 学術研究助成基金助成金(文部科学省)

小計 16件

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
消化管ペプチドと循環器との機能連関に関する研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,200,000	補 委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	400,000	補 委 独立行政法人国立病院機構京都医療センター
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	46,352,748	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん細胞が生成する尿中蛋白質断片の検出を応用した肺腺癌早期診断システム樹立に関する研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	17,002,696	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
超高感度尿中微量蛋白質解析技術を用いた肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカー開発研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	24,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
治療抵抗性関節リウマチ患者におけるHTLV-1感染の影響	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	520,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	400,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,300,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	26,909,999	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1感染者および関連疾患患者に合併する炎症性疾患の炎症促進因子の探索	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	4,000,000	補 委 国立大学法人京都大学
炎症性腸疾患を対象としたアトレマデュリン療法の開発における補完研究	芦塚 伸也	消化器内科	1,430,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
BPSD発言予測因子としてのバイオマーカーの応用研究	林 要人	精神科	1,040,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
光遺伝子学を用いたうつ病ゲリアモデルの検討	蛭原 功介	精神科	1,690,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
精神神経疾患の個体差を克服する個別化薬物療法に有用な分子標的放射性診断薬の開発	石田 康	精神科	195,000	補 委 科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
認知行動療法の質保証に向けたコア・コンピテンスの解明と教育研修プログラムの精緻化	武井 優子	小児科	520,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
小児バセドウ病に対するコレステロール吸収阻害剤併用療法の多施設ランダム化比較試験	澤田 浩武	小児科	130,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)

小計 16件

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Mfsd2遺伝子KOマウスを用いた、脳内DHAによるエネルギー代謝調節機構の解明	澤田 浩武	小児科	1,820,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
慢性肉芽腫症マウスを用いたPEG-DAO酵素補充療法の開発	布井 博幸	小児科	4,420,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
網羅的遺伝子解析をとおして固定した家族性白血病原因遺伝子の機能解析	盛武 浩	小児科	2,470,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
ユーンク肉腫に対する新規チロシナーゼ阻害薬の有効性評価	澤 大介	小児科	1,950,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	布井 博幸	小児科	800,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験の実施研究	池田 俊郎	小児科	2,015,000	補 委 学校法人東京女子医科大学
CGD腸炎の患者選定、治験実施体制の整備、治験の実施	布井 博幸	小児科	1,000,000	補 委 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
FDG PET腫瘍診断と腫瘍遺伝子変異の関連に基づくテーラーメイド医療の開発	七島 篤志	肝胆膵外科	117,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
臨床実用を目指した癌幹細胞標的放射線力学的療法の基礎研究	七島 篤志	肝胆膵外科	130,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
レジリエンス・エンジニアリング理論の医療の質・安全における実用化に関する研究	綾部 貴典	呼吸器・乳腺外科	169,000	補 委 科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
著明な骨量減少をきたすNedd4遺伝子欠損マウスの機能解析	関本 朝久	整形外科	1,040,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨代謝に関与する新規遺伝子群の機能解析	黒木 修司	整形外科	1,430,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
骨特異的プロモーター+レポーター遺伝子導入ES細胞を用いた骨再生の新たな試み	大田 智美	整形外科	1,040,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肩関節変性疾患の病態解明	谷口 昇	整形外科	1,690,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
骨系統疾患モデルマウス候補Lbrトラップマウスの表現型解析	船元 太郎	整形外科	1,560,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発	天野 正宏	皮膚科	1,300,000	補 委 国立研究開発法人国立がん研究センター

小計 16件

# 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
西諸地区で発生した急性冠疾患に対するonset to needle timeの短縮のための、救急現場からの12誘導心電図伝送の有用性に関する研究	落合 秀信	救急科	1,000,000	補 ⑤ 小林市立病院
CRPCにおけるCAVEOLIN-1、2 関連シグナル伝達を介した新規治療法の探索	賀本 敏行	泌尿器科	1,820,000	補 ⑤ 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
腎癌骨転移における膜結合型タンパクの機能解析と新規治療法の確立	向井 尚一郎	泌尿器科	1,040,000	補 ⑤ 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
低リスク前立腺癌患者を対象とした低用量クロルマジノン酢酸エステルのアクティブサーベイランス継続率に対する効果を検討する多施設共同、プラセボ対照、無作為化二重盲検群間比較試験	賀本 敏行	泌尿器科	216,000	補 ⑤ 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
転移性前立腺癌に対するGnRHアンタゴニスト単剤療法とGnRHアゴニストCAB療法のランダム化比較試験	賀本 敏行	泌尿器科	86,400	補 ⑤ 一般社団法人九州臨床研究支援センター
非動脈炎性虚血性視神経症の治療とステロイドの毛様動脈への弛緩作用の検討	中馬 秀樹	眼科	390,000	補 ⑤ 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
X連鎖性網膜色素変性症の治療の試みと原因の解明	直井 信久	眼科	1,040,000	補 ⑤ 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
非動脈炎性虚血性視神経症ラットモデルによる動物実験	日高 貴子	眼科	650,000	補 ⑤ 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
人工内耳による遠隔聴覚管理システムの構築	山本 麻代	耳鼻いんこう・頭頸部外科	560,000	補 ⑤ 科学研究費補助金(文部科学省)
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻いんこう・頭頸部外科	500,000	補 ⑤ 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
日向夏みかんから分離した水溶性高分子生理活性多糖類の固定とその作用機序の研究	山口 昌俊	産科・婦人科	1,950,000	補 ⑤ 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
HTLV-1 母子感染予防に関する研究:HTLV-1 抗体陽性母体からの出生児のコホート研究	鮫島 浩	産科・婦人科	400,000	補 ⑤ 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ATLE)の病態解明等と死亡数減少のための研究	児玉 由紀	産科・婦人科	600,000	補 ⑤ 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
①妊婦リスク診断法開発 ②『安心で安全な妊娠・出産』に向けた母子感染の感染予防と妊婦診療マニュアルの普及と母子医療相談体制の継続 ③予防策の有効性の研究と妊婦の診療ガイドラインの作成	鮫島 浩	産科婦人科	819,000	補 ⑤ 国立大学法人東京大学

小計 14件

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
局所蛋白過剰発現による深部静脈血栓の形成機序解析と治療法の確立	古小路 英二	放射線科	910,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
定量的磁化率マップによる脳アミロイドの定量化および画像化	平井 俊範	放射線科	1,170,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
認知症におけるアパシーの神経基盤に関する研究	平井 俊範	放射線科	130,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
時系列カラー表示ASL-MRAの基礎的・臨床的研究	平井 俊範	放射線科	520,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
臨床用MRIを用いたアルツハイマー病発症前診断を可能にする位相画像技術の開発	平井 俊範	放射線科	65,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
”主幹動脈収縮説”を基盤としたもやもや病早期診断/重症化予測法の確立	平井 俊範	放射線科	39,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
特徴対応異種画像統合法を用いた個人特定法医画像診断法の開発	新川 慶明	放射線科	390,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肺ラジオ波焼灼術効果判定におけるトリプトファン代謝物質の有効性に関する基礎研究	中田 博	放射線科	1,430,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
神経変性疾患に対する定量的磁化率マッピングの有用性の検討	東 美菜子	放射線科	1,430,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
胆道癌における癌関連遺伝子発現とFDG集積との関連に関する研究	長町 茂樹	放射線科	910,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳動脈瘤塞栓術におけるHydrogel coilの塞栓効果に関する多施設共同無作為化比較試験(HYBRID study)	平井 俊範	放射線科	84,240	補 委 公益財団法人先端医療振興財団
FDG-PET/CTの不明熱診断への応用ーガリウムSPECTとの比較研究	長町 茂樹	放射線科	200,000	補 委 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
重症敗血症における臓器リモデリングの検討	矢野 武志	麻酔科	1,690,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
ヒト臍帯動脈におけるmyogenic response の検討	恒吉 勇男	麻酔科	1,690,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
毛様細胞性星細胞腫における増殖血管内皮の起源の解明	竹島 秀雄	脳神経外科	2,600,000	補 委 学術研究助成基金助成金(文部科学省)

小計 15件

# 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
OSCC新規診断、治療標的としてのBST2の検討	近藤 雄大	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,430,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
口腔顎顔面筋刺激が顎口腔機能 異常患者の睡眠・ストレスに及ぼす 効果の検討	温水 佳世子	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,170,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
人工呼吸器管理患者における高 感度濁度計の口腔清潔度評価と しての有用性の検討	井川 加織	歯科口腔外科・矯正 歯科	650,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
口腔扁平上皮癌における炎症性 発癌機構の解明	長井 健太郎	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,040,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
HTLV-1キャリアにおける遺伝子変 異の解析とその臨床的意義の解 明	日高 智徳	がん診療部	1,690,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
病理組織学、網羅的代謝解析、レ オロジーを融合したアテローム血 栓症の発症機序の解明	浅田 祐士郎	病理診断科	5,460,000	補 委 科学研究費 補助金(文部 科学省)
細胞膜結合型セリンプロテアーゼ インヒビターによる上皮完全性維持と癌抑 制機構	片岡 寛章	病理診断科	5,850,000	補 委 科学研究費 補助金(文部 科学省)
動脈硬化の治療戦略に役立つ核 医学イメージング法:EBMのための 実験的研究	浅田 祐士郎	病理診断科	195,000	補 委 科学研究費 補助金+科学 研究費助成 金(文部科学 省)
生体イメージング技術の開発・検 証	浅田 祐士郎	病理診断科	910,000	補 委 国立研究開 発法人国立 循環器病研 究センター
動脈硬化性血栓症における内因 系凝固因子の役割	山下 篤	病理診断科	1,690,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
動脈硬化の治療戦略に役立つ核 医学イメージング法:EBMのための 実験的研究	山下 篤	病理診断科	195,000	補 委 科学研究費 補助金+科学 研究費助成 金(文部科学 省)
アテローム血栓症におけるkalirin の関与	佐藤 勇一郎	病理診断科	1,560,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
個人を中心とするヘルスケアデー タの活用に関する研究	荒木 賢二	医療情報部	4,550,000	補 委 科学研究費 補助金(文部 科学省)
医療者間コミュニケーション不全解 消のための電子クリニカルパスの 用件定義および実装	鈴木 斎王	患者支援センター	1,300,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
呼吸器悪液質発症に関与する脂 肪細胞由来因子の同定とグレリン の抗悪液質作用機序解明	坪内 拓伸	卒後臨床研修セン ター	1,170,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)
肝臓がんに対するシスプラチン/ カフェイン併用化学療法の有用性 に関する研究	有森 和彦	薬剤部	1,170,000	補 委 学術研究助 成基金助成 金(文部科学 省)

小計 16件



# 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血小板造血および血小板機能シグナルにおけるRUNX1の役割の解明	下田 晴子	輸血・細胞治療部	1,300,000	補 委	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
成人T細胞性白血病・リンパ腫における遺伝子変異の解析とその意義の解明	久富木 庸子	輸血・細胞治療部	1,690,000	補 委	学術研究助成基金助成金(文部科学省)

小計 2件

合計110件

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
  - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入
  - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takeshi Ideguchi, Toshihiro Tsuruda, Yuji Sato, 他	第一内科	Coexisting Hyponatremia and Decline in Diastolic Blood Pressure Predispose to Atrial Standstill in Hyperkalemic Patients.	Circulation Journal ・ 2016 Jul;80(8):1781-6	Original Article
2	Tatsunori Toida, Yuji Sato, Hideto Nkagawa, 他	第一内科	Risk of Cerebral Infarction in Japanese Hemodialysis Patients: Miyazaki Dialysis Cohort Study (MID study).	Kidney Blood Pressure Research ・ 2016 Jul;41(4):471-8	Original Article
3	Tatsunori Toida, Takashi Iwakiri, Yuji Sato, 他	第一内科	Relationship between Hemoglobin Levels Corrected by Interdialytic Weight Gain and Mortality in Japanese Hemodialysis Patients: Miyazaki Dialysis Cohort Study.	PLoS One ・ 2017 Jan;12(1):e0169117 (オンライン)	Original Article
4	Toshihiro Tsuruda, Takeshi Ideguchi	第一内科	Second in a series on hyperkalemia: What are the clinical consequences of hyperkalemia on the heart and what are the uses of electrocardiograms in hyperkalemia?	E-journal of Cardiology Practice ・ 2016 May;14:12-31	Review
5	Toshihiro Tsuruda, Shigeki Nagamachi, Masanori Nishimura, 他	第一内科	Multiple 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography Scans Showing Progression of Abdominal Aortic Aneurysm: A Case Report.	Medicine (Baltimore) ・ 2016 May;95(19):e3650 (オンライン)	Case report

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
6	Yuji Sato, Shouichi Fujimoto, Tatsunori Toida, 他	血液浄化療法部	Apoprotein B/Apoprotein A-1 Ratio and Mortality among Prevalent Dialysis Patients.	Clinical Journal of the American Society of Nephrology ・ 2016 May;11(5):840-6	Original Article
7	Yoko Kubuki, Takumi Yamaji, Tomonori Hidaka, 他	輸血・細胞治療部	TET2 mutation in diffuse large B-cell lymphoma.	Journal of Clinical and Experimental Hematopathology ・ 2017 Mar;56(3):145-149	Original Article
8	Yoko Kubuki, Kotaro Shide, Takuro Kameda, 他	輸血・細胞治療部	Differences in Hematological and Clinical Features Between Essential Thrombocythemia Cases With JAK2- or CALR-Mutations.	Annals of Laboratory Medicine ・ 2017 Mar;37(2):159-161	Letter
9	Hironobu Tsubouchi, Nobuhiro Matsumoto, Shigehisa Yanagi, 他	第三内科	Successful treatment of sepsis due to Pantoea agglomerans by polymyxin B- immobilized fiber column direct hemoperfusion therapy in a small cell lung carcinoma patient.	Respiratory Medicine Case Reports ・ 2016 Oct;19:155-158	Case report
10	Farhana Naznin, Hideyuki Sakoda, Tadashi Okada, 他	第三内科	Canagliflozin, a sodium glucose cotransporter 2 inhibitor, attenuates obesity-induced inflammation in the nodose ganglion, hypothalamus, and skeletal muscle of mice.	European Journal of Pharmacology ・ 2017 Jan;794:37-44	Original Article
11	Shigehisa Yanagi, Hironobu Tsubouchi, Ayako Miura, 他	第三内科	The Impacts of Cellular Senescence in Elderly Pneumonia and in Age-Related Lung Diseases That Increase the Risk of Respiratory Infections.	International Journal of Molecular Sciences ・ 2017 Feb;18(3):503	Review

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Shuhei Kawahata	消化器内科	Transpapillary selective bile duct cannulation technique: Review of Japanese randomized controlled trials since 2010 and an overview of clinical results in precut sphincterotomy since 2004.	Digestive Endoscopy・ 2016 Apr;28 Suppl 1:77-95	Original Article
13	Hiroshi Kawakami, Kimitoshi Kubo, Masaki Kuwatani, 他	消化器内科	Liver elasticity measurement before and after biliary drainage in patients with obstructive jaundice: a prospective cohort studya prospective cohort study.	BMC Gastroenterology・ 2016 Jul;16(1):65	Original Article
14	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Shuhei Kawahata, 他	消化器内科	Peroral transhepatic choolangioscopy-guided electrohydraulic lithotripsy via an endoscopic ultrasonography-guided hepaticogastrostomy route for bile duct stones in a patient with Roux-en-Y anatomy.	Endoscopy・ 2016 Apr;48 Suppl 1:E146-7(オンライン)	Case report
15	Hiroshi Kawakami, Kazumichi Kawakubo, Yoshimasa Kubota, 他	消化器内科	Reply to Rimbas, et al.	Endoscopy・ 2016 Jul;48(7):687	Letter
16	Hiroshi Kawakami, Kazumichi Kawakubo, Yoshimasa Kubota	消化器内科	Reply to Saritas and Ustundag.	Endoscopy・ 2016 Jul;48(7):689	Letter

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
17	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota	消化器内科	Novel wire-guided fine-gauge bougie dilator for transpapillary or endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage.	Endoscopy ・ 2017 Jan;49(S 01):E75-E77 (オンライン)	Case report
18	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Shinya Ashizuka	消化器内科	Balloon enteroscopy-assisted biliary drainage using a diathermic dilator followed by placement of a novel ultra-slim metallic stent.	Endoscopy ・ 2017 Jan;49(S 01):E78-E80 (オンライン)	Case report
19	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided antegrade stenting combined with hepaticogastrostomy/hepaticojejunostomy using ultraslim instruments.	Endoscopy ・ 2017 Feb;49(S 01):E88-E89 (オンライン)	Case report
20	Ichiro Takajo, Tsuyoshi Sekizuka, Hiromi Fujita, 他	感染制御部	Possible Case of Novel Spotted Fever Group Rickettsiosis in Traveler Returning to Japan from India.	Emerging Infectious Diseases ・ 2016 Jun;22(6):1079-82	Case report
21	Kazumi Umeki, Kunihiko Umekita, Yuuki Hashikura, 他	検査部	Evaluation of Line Immunoassay to Detect HTLV-1 Infection in an Endemic Area, Southwestern Japan; Comparison with Polymerase Chain Reaction and Western Blot.	Clinical Laboratory (Heidelberg) ・ 2017 Feb;63(2):227-233	Original Article
22	Ryoei Miyoshi, Hisae Matsuo, Ryuichiro Takeda, 他	精神科	Burnout in Japanese residents and its associations with temperament and character.	Asian Journal of Psychiatry ・ 2016 Dec;24:5-9	Original Article

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
23	Keiko Naono- Nagatomo, Hisao Naono, Hiroshi Abe, 他	精神科	Partial regimen replacement with aripiprazole reduces serum prolactin in patients with a long history of schizophrenia: a case series.	Asian Journal of Psychiatry ・ 2017 Feb;25:36-41	Original Article
24	Ai Yamada, Hiroshi Moritake, Mriko Kinoshita, 他	小児科	Relapsed childhood acute myeloid leukemia patient with inversion of chromosome 16 harboring a low FLT3 internal tandem duplication allelic burden and KIT mutations.	Pediatrics International ・ 2016 Sep;58(9):905-8	Case report
25	Takao Konomoto, Jun Kurogi, Hirotake Sawada, 他	小児科	Osteogenesis imperfecta complicated with renal hypoplasia leads to chronic kidney disease.	Pediatrics International ・ 2017 Mar;59(3):369-370	Case report
26	Takao Konomoto, Hideaki Imamura, Mayuko Orita, 他	小児科	Clinical and histological findings of autosomal dominant renal-limited disease with LMX1B mutation.	Nephrology ・ 2016 Sep;21(9):765-73	Original Article
27	Atsushi Nanashima, Yorihisa Sumida, Terumitsu, 他	肝胆膵外科	Ischemic time by the intermittent occlusion of hepatic inflow (Pringle's maneuver) influences surgical outcome after hepatectomy.	Acta Medica Nagasakiensia ・ 2016 Apr;60(3):109-117	Original Article
28	Atsushi Nanashima, Takeshi Nagayasu	肝胆膵外科	Development and clinical usefulness of the liver hanging maneuver in various anatomical hepatectomy procedures.	Surgery Today ・ 2016 Apr;46(4):398-404	Review

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
29	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Yuki Tsuchimochi, 他	肝胆膵外科	Combined resection of aberrant right hepatic artery without anastomosis in pancreaticoduodenect omy for pancreatic head cancer: a case report.	International Journal of Surgery Case Reports・ 2016 Jun;25:66-70	Case report
30	Atsushi Nanashima, Hiroo Izumino, Yorihisa Sumida, 他	肝胆膵外科	Relationship Between Urinary 8- hydroxydeoxyguanine (8-OHdG) Levels and Clinicopathological Findings in Hepatobiliary Malignancies.	Anticancer Research・ 2016 Aug;36(8):3899-903	Original Article
31	Atsushi Nanashima, Ayami Sakamoto, Ichiro Sakamoto, 他	肝胆膵外科	Evaluation of malignant pancreatic tumor using artificial acoustic radiation force ultrasonography in patients undergoing pancreatectomy.	Acta Medica Nagasakiensia・ 2016 Sep;60(4):135-140	Original Article
32	Atsushi Nanashima, Katsunori Takagi, Goushi Murakami, 他	肝胆膵外科	Influences of compounded human ghrelin for pancreatic fistula after distal pancreatectomy in a mouse model.	Acta Medica Nagasakiensia・ 2016 Sep;60(4):153-159	Original Article
33	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Yuki Tsuchimochi, 他	肝胆膵外科	Horizontal traumatic laceration of the pancreas head: A rare case report.	International Journal of Surgery Case Reports・ 2017 Jan;31:119-123	Case report
34	Atsushi Nanashima, Koji Nkashima, Hiroshi Kawakami, 他	肝胆膵外科	Nursing care management of photodynamic therapy in digestive tract carcinomas at a single cancer center.	Photodiagnosis and Photodynamic Therapy・ 2017 Mar;17:221-225	Case report

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
35	Masahide Hiyoshi, Takashi Wada, Yuki Tsuchimochi, 他	肝胆膵外科	Hepaticoplasty prevents cholangitis after pancreaticoduodenect omy in patients with small bile ducts.	International Journal of Surgery ・ 2016 Nov;35:7-12	Original Article
36	Naoya Imamura, Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, 他	肝胆膵外科	Report of two cases of large cell neuroendocrine carcinoma of duodenal ampulla with contrasting outcomes following pancreaticoduodenect omy according to the use of adjuvant chemotherapy.	International Journal of Surgery Case Reports ・ 2017 Jan;31:132-138	Case report
37	Fumiaki Kawano, Masaki Tomita, Hiroyuki Tanaka, 他	消化管・内分泌・小児外科	Thyroid carcinoma with extensive tumor thrombus in the superior vena cava: A case report.	International Journal of Surgery Case Reports ・ 2016 Oct;29:25-29	Case report
38	Mitsutoshi Ishii, Shinsuke Takeno, Takahiro Nishida, 他	消化管・内分泌・小児外科	Thoracoscopic enucleation in the left decubitus position for leiomyoma of the upper thoracic esophagus: Utility of preoperative diagnosis applying endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration.	International Journal of Surgery Case Reports ・ 2017 Mar;34:49-55	Case report
39	Atsuko Yokota, Shuji Gamoh, Naoko Tanaka- Totoribe, 他	心臓血管外科	Angiotensin II, as well as 5- hydroxytryptamine, is a potent vasospasm inducer of saphenous vein graft for coronary artery bypass grafting in patients with diabetes mellitus.	Biochemistry and Biophysics Reports ・ 2016 Jul;6:82-87	Case report



## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
40	Hirohito Ishii, Kunihide Nakamura, Eisaku Nakamura, 他	心臓血管外科	Aortic Pseudoaneurysm due to Simple Vertebral Compression Fracture Treated with Conservative Management.	Annals of Vascular Diseases ・ 2016 Nov;9(4):349-351 (オンライン)	Case report
41	Koji Furukawa, Shuhei Sakaguchi, Eisaku Nakamura, 他	心臓血管外科	Acute Aortic Regurgitation due to Spontaneous Laceration of the Aorta.	Open Journal of Clinical and Medical Case Reports ・ 2016 Apr;2(7):1102	Case report
42	Mitsuhiro Yano, Masakazu Matsuyama, Masanori Nishimura, 他	心臓血管外科	The adjustable slipknot technique for implanting neochordae in the repair of mitral valve prolapse.	Multimedia Manual of Cardio-thoracic Surgery ・ 2016 Dec;2016	Others
43	Kazuyo Tsuchiya, Takuto Ikeda, Baatarsuren Batmunkh, 他	呼吸器・乳腺外科	Frequency of CD4+CD161+ T Cell and Interleukin-10 Expression in Inflammatory Bowel Diseases.	Acta Histochemica et Cytochemica ・ 2017 Feb;50(1):21-28	Original Article
44	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Eiichi Chosa, 他	呼吸器・乳腺外科	Severity of Chronic Obstructive Pulmonary Disease and the Prognosis of Non-Small Cell Lung Cancer Patients.	Advances in Lung Cancer ・ 2016 Jun;5:13-20	Original Article
45	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Eiichi Chosa, 他	呼吸器・乳腺外科	Prognostic Significance of a Tumor Marker Index Based on Preoperative Serum Carcinoembryonic Antigen and Krebs von den Lungen-6 Levels in Non-Small Cell Lung Cancer.	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention ・ 2017 Jan;18(1):287-291	Original Article

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
46	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Eiichi Chosa, 他	呼吸器・乳腺外科	Preoperative Serum Krebs Von Den Lungen-6 and Surfactant Protein-D Levels in Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Interstitial Pneumonia.	Open Journal of Thoracic Surgery ・ 2017 Mar;7:1-7	Original Article
47	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Eiichi Chosa, 他	呼吸器・乳腺外科	Prognostic significance of preoperative serum Krebs von den Lungen-6 level in non-small cell lung cancer.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery ・ 2016 Nov;64(11):657-661	Original Article
48	Naohiro Nose, Kazuhiro	呼吸器・乳腺外科	Port-site implantation of Type A Masaoka Stage I thymoma after video-assisted thoracic surgery: a case report.	Journal of Surgical Case Reports ・ 2016 Sep;2016(9)	Case report
49	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Naohiro Nose, 他	呼吸器・乳腺外科	Unexpected Intraoperative Resecting of Common Trunk of Pulmonary Vein Resulted in an Incidental Pneumonectomy from Left Upper Lobectomy.	Open Journal of Thoracic Surgery ・ 2016 Aug;6:18-24	Case report
50	Takanori Ayabe, Genji Shinpuku, Masaki Tomita, 他	呼吸器・乳腺外科	Changes in Safety Attitude and Improvement of Multidisciplinary Teamwork by Implementation of the WHO Surgical Safety Checklist in University Hospital.	Open Journal of Safety Science and Technology ・ 2017 Feb;7:22-41	Original Article

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Nami Yamaguchi, Etsuo Chosa, Katsuhiko Kawahara, 他	整形外科	Screening for musculoskeletal problems in Japanese schoolchildren: a cross-sectional study nested in a cohort.	Public Health ・ 2016 Oct;139:189-197	Original Article
52	Syuji Kurogi, Tomohisa Sekimoto, Taro Funamoto, 他	整形外科	Development of an efficient screening system to identify novel bone metabolism-related genes using the exchangeable gene trap mutagenesis mouse models.	SCIENTIFIC REPORTS ・ 2017 Jan;7:40692	Original Article
53	Kosuke Mochida, Masahiro Amano, Noroko Miyake, 他	皮膚科	Dermatan 4-O-sulfotransferase 1-deficient Ehlers-Danlos syndrome complicated by a large subcutaneous hematoma on the back.	The Journal of Dermatology ・ 2016 Jul;43(7):832-3	Letter
54	Takahiro Nagai, Toshio Kamimura, Kaoru Itou, Masato Fujii, 他	泌尿器科	Myopericytoma in urinary bladder: a case report.	Journal of Medical Case Reports ・ 2017 Feb;11(1):46	Case report
55	Takako Hidaka, Hideki Chuman, Nobuhisa Nao-i	眼科	Bilateral Rhegmatogenous Retinal Detachment during External Beam Radiotherapy.	Case Reports in Ophthalmology ・ 2016 Jun;7(2):315-20	Case report
56	Takeshi Nakamura, Tomohiro Fukaya, Tomofumi Uto, 他	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Selective depletion of basophils ameliorates immunoglobulin E-mediated anaphylaxis.	Biochemistry and Biophysics Reports ・ 2017 Mar;9:29-35	Original Article

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
57	Takahiro Nakashima	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Case Report of Atlantoaxial Rotatory Fixation after Cochlear Implantation.	Case Reports in Otolaryngology・ 2016 Jun;2016:6486271	Case report
58	Masanao Ohhashi, T. Yoshitomi, Kaeko Sumiyoshi, 他	産科・婦人科	Magnesium sulphate and perinatal mortality and morbidity in very- low-birthweight infants born between 24 and 32 weeks of gestation in Japan.	European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology ・ 2016 Jun;201:140-5	Original Article
59	Kaori Michikata, Hiroshi Sameshima, Hirotohi Urabe, 他	産科・婦人科	The Regional Centralization of Electronic Fetal Heart Rate Monitoring and Its Impact on Neonatal Acidemia and the Cesarean Birth Rate.	Journal of Pregnancy・ 2016 May;2016:3658527 (オンライン)	Original Article
60	Yohei Maki, Seishi Furukawa, Yuki Kodama, 他	産科・婦人科	Preterm labor and neonatal sepsis caused by intrauterine Helicobacter cinaedi infection.	Journal of Infection and Chemotherapy・ 2016 Jun;22(6):414-6	Case report
61	Masatoki Kaneko, Masanao Ohhashi, Toshio Minematsu, 他	産科・婦人科	Maternal immunoglobulin G avidity as a diagnostic tool to identify pregnant women at risk of congenital cytomegalovirus infection.	Journal of Infection and Chemotherapy・ 2017 Mar;23(3):173-176	Original Article
62	Junji Onishi, Yuichiro Sato, Akira Sawaguchi, 他	総合周産期母子医療セン ター	Stratified mucin- producing intraepithelial lesion with invasive corcinoma:12 cases with immunohistochemical and ultrastructural findings.	Human Pathology・ 2016 Sep;55:174-81	Original Article

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
63	Rie Yamashita, Yuki Kodama, Hiroshi Sameshima, 他	総合周産期母子医療センター	Trends in Perinatal Death and Brain Damage: A Regional Population-Based Study in Southern Japan, 1998-2012.	Austin Pediatrics ・ 2016 Oct;3(4):1043	Original Article
64	Yuki Kodama, Hiroshi Sameshima, Tsuyomu Ikenoue	総合周産期母子医療センター	Temporal trends in perinatal mortality and cerebral palsy: A regional population-based study in southern Japan.	Brain and Development ・ 2016 Apr;38(4):386-91	Original Article
65	Yuki Kodama, Hiroshi Sameshima, Masatoki Kaneko, 他	総合周産期母子医療センター	Hydrops Fetalis Associated with Congenital Cytoplasmic Body Myopathy.	Obstetrics and Gynaecology Cases-Reviews ・ 2016 Nov;3(7):099	Case report
66	Zaw Aung Khant, Toshinori Hirai, Yoshihito Kadota, 他	放射線科	T1 Shortening in the Cerebral Cortex after Multiple Administrations of Gadolinium-based Contrast Agents.	Magnetic Resonance in Medical Sciences ・ 2017 Jan;16(1):84-86	Case report
67	Eiji Furukoji, Toshihiro Goto, Atsushi Yamashita, 他	放射線科	CD163 macrophage and erythrocyte contents in aspirated deep vein thrombus are associated with the time after onset: a pilot study.	Thrombosis Journal ・ 2016 Nov;14:46	Original Article
68	Toyoaki Maruta, Yoshihumi Kodama, Ishie Tanaka, 他	麻酔科	Comparison of the effect of continuous intravenous infusion and two bolus injections of remifentanil on haemodynamic responses during anaesthesia induction: a prospective randomised single-centre study.	BioMed Central anaesthesiology ・ 2016 Nov;16(1):110	Original Article

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
69	Takeshi Yano, Tetsu Yonaha, Koutaro Hidaka, 他	集中治療部	A case of severe acute exacerbation of Yokkaichi asthma treated with a vibrating mesh nebulizer.	Respiratory Medicine Case Reports ・ 2016 Aug;19:83-5	Case report
70	Junko Nagata, Kaori Igawa, Kayoko Nukumizu, 他	歯科口腔外科・矯正歯科	A Case of Corticotomy-Assisted Orthodontic Treatment of a Traumatically Intruded Immature Permanent Tooth With Ankylosis.	Pediatric Oral and Maxillofacial Surgery ・ 2016 Dec; 26(3):117-125	Original Article
71	Yuudai Kondo, Kentari Nagai, Yuri Tagawa, 他	歯科口腔外科・矯正歯科	Surgical resection or additional radiotherapy after superselective intra-arterial chemotherapy (docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil) using the Seldinger technique and concurrent chemoradiotherapy for T3 or T4 oral squamous cell carcinoma.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology ・ 2016 Sep;28(5):385-391	Original Article
72	Yuudai Kondo, Kentaro Nagai, Yuri Tagawa, 他	歯科口腔外科・矯正歯科	Prognosis of Early Stage Oral Squamous Cell Carcinoma Based on Sentinel Lymph node Biopsy for Diagnosis of Cervical Lymph Node Metastasis.	Japanese Journal of Oral Diagnosis / Oral Medicine ・ 2017 Feb;30(1):89-94	Original Article
73	Makiko Kawaguchi, Koji Yamamoto, Ai Kanemaru, 他	病理診断科	Inhibition of nuclear factor- $\kappa$ B signaling suppresses Spint1-deletion-induced tumor susceptibility in the ApcMin/+ model.	Oncotarget ・ 2016 Sep;7:68614-68622	Original Article

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
74	Ai Kanemaru, Koji Yamamoto, Makiko Kawaguchi, 他	病理診断科	Deregulated matriptase activity in oral squamous cell carcinoma promotes the infiltration of cancer-associated fibroblasts by paracrine activation of protease-activated receptor 2.	International Journal of Cancer ・ 2017 Jan;140(1):130-141	Original Article
75	Akinobu Ohno, Yuichiro Sato, Eriko Nakamura, 他	病理部	Cytological findings and BCL10 expression in pancreatic acinar cell carcinoma: A case report.	Diagnostic Cytopathology ・ 2017 Mar;45(3):247-251	Case report
76	Tomohiro Abe, Hidenobu Ochiai	救急科	Rapid response doctor cars for cases of severe trauma in remote locations: A life saved owing to cooperation between a doctor car and a physician from a local medical facility.	Journal of Rural Medicine ・ 2016 Jun;11(1):25-9	Case report
77	Tomohiro Abe, Akira Sasaki, Taichiro Ueda, 他	救急科	Complement- mediated thrombotic microangiopathy secondary to sepsis- induced disseminated intravascular coagulation successfully treated with eculizumab: A case report.	Medicine (Baltimore) ・ 2017 Feb;96(6):e6056(オ ンライン)	Case report
78	Katsuhiko Kanemaru, Robert Katzner, Syu Hanato, 他	救急科	Weather Webcam System for the Safety of Helicopter Emergency Medical Services in Miyazaki, Japan.	Air Medical Journal ・ 2017 Mar;36(2):71-76	Original Article

計 78件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 6 回
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する基礎知識、研究計画書の書き方等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。  
また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を  
開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師  
に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 63 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北村 和雄	第一内科	教授	36年	
下田 和哉	第二内科	教授	29年	
中里 雅光	第三内科	教授	36年	
岡山 昭彦	膠原病感染症内科	教授	36年	
石田 康	精神科	教授	31年	
布井 博幸	小児科	教授	39年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	28年	
池田 拓人	消化管・内分泌・ 小児外科	講師	24年	
中村 都英	心臓血管外科	教授	35年	
富田 雅樹	呼吸器・乳腺外科	准教授	28年	
守永 圭吾	形成外科	講師	17年	
帖佐 悦男	整形外科	教授	32年	
天野 正宏	皮膚科	教授	30年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	29年	

直井 信久	眼科	教授	37年	
東野 哲也	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	35年	
川越 靖之	産科・婦人科	准教授	24年	
平井 俊範	放射線科	教授	27年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	26年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	33年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	23年	
片岡 寛章	病理診断科	教授	34年	
落合 秀信	救急科	教授	28年	
帖佐 悦男	リハビリテーション科	教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p> <p>研修の主な内容：①がんセミナー：食道がんの手術、②Spine Dynamics理論から新しい徒手基本的技術の体操、③顔面神経麻痺：リハビリテーションの新しい展開、④平成28年度宮崎県病院薬剤師会中小病院委員会研修会、⑤片麻痺患者の特徴・リハビリについて、⑥橈骨遠位部骨折の基礎解剖、⑦細胞診養成研修会（講義および実習）、⑧文献紹介と症例報告、⑨宮崎MRIセミナー、⑩宮崎県病院薬剤師会 病院薬学認定研修会、⑪宮崎県病院薬剤師会研修会、⑫宮崎放射線治療管理技術研究会、⑬精神科領域専門薬剤師養成講習会</p> <p>研修期間：平成28年度</p> <p>実施回数：①～⑥1回、⑦3回、⑧11回、⑨2回、⑩2回、⑪5回、⑫2回、⑬6回</p> <p>参加人数：①24人、②25人、③24人、④30人、⑤25人、⑥25人、⑦61人、⑧243人、⑨119人、⑩195人、⑪528人、⑫63人、⑬208人</p>
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p> <p>研修の主な内容：①国際認証に関わる研修及び周知、②第7回国立大学病院リハビリテーション部門 技師長・主任者会議、③医療機器安全管理取扱要領第7条に基づく研修、④病理業務に関する研修医に対する研修、⑤剖検症例検討会、⑥骨髄カンファレンス、⑦神経放射線・病理カンファレンス、⑧泌尿器病理カンファレンス、⑨胎盤肉眼検討会、⑩婦人科病理カンファレンス、⑪頭頸部カンファレンス</p> <p>研修の期間：平成28年度</p> <p>実施回数：①21回、②1回、③26回、④1回、⑤26回、⑥週1回、⑦2週1回、⑧2週1回、⑨週1回、⑩週1回、⑪2週1回</p> <p>研修の参加人数：①492人、②1人、③145人、④2人、⑤650人、⑥～⑪25人</p>
<p>③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況</p> <p>研修の主な内容：①災害時の検査部での使命と活動、KJ法と二次元展開法を組み合わせた検査データの読み方、②認定輸血検査技師制度指定病院研修、③第8回宮崎リハビリテーション講習会 高次脳機能障害市民公開講座、④第39回宮崎リハビリテーション研究会、⑤第7回病理診断フォーラム、⑥リンパ節の細胞診ワークショップ</p> <p>研修の期間：平成28年度</p> <p>実施回数：①2回、②2回、③1回、④1回、⑤1回、⑥1回</p> <p>参加人数：①91人、②2人、③100人、④74人、⑤41人、⑥44人</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画      ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 鮫島 浩
管理担当者氏名	総務課長 龍元 裕貴

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。</li> <li>エックス線写真は電子媒体に保存</li> </ul>
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	なし	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課 総務課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医事課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床倫理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
職員研修の実施状況	医事課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 鮫島 浩	
閲覧担当者氏名	総務課長 龍元 裕貴	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3階 ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none"><li>・内部者については、権限を付与し、閲覧を制限している。</li><li>・外部者については、特に定めていない。</li></ul>		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療に係る安全管理の基本的考え方</li><li>2. 医療に係る安全管理体制</li><li>3. 職員研修・教育</li><li>4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策</li><li>5. 医療事故等発生時の対応</li><li>6. 患者等との情報の共有</li><li>7. 患者からの相談の対応</li><li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置の有無 ( 有 ) ・ 無 )</li><li>・ 開催状況：年 13回</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。</li><li>2. 医療安全管理マニュアルに関する事。</li><li>3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。</li><li>4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知知に関する事</li><li>5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。</li><li>6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。</li><li>7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。</li><li>8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。</li><li>9. 医療安全管理部の業務に関する事。</li><li>10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li><li>11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li><li>12. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。</li></ol></li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況</li></ul> <p>年16回</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全管理に関する講演会 (4回)<ul style="list-style-type: none"><li>第1回 医療機器を安全に使用するために</li><li>第2回 医療事故からの学び</li><li>第3回 「『決められない』患者さんに対するインフォームド・コンセント取得</li><li>第4回 特定機能病院承認要件見直しに伴う医薬品安全管理体制について</li></ul></li><li>※ 講演会未受講者はe-ラーニングシステムを活用し、受講している。(1回)</li><li>2. 各部署との勉強会 (1回)</li><li>3. 新規採用者研修 (10回)</li></ol></li></ul>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. リスクマネージャー会での事例報告及び周知
  2. 作業標準の作成
  3. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し
  4. 院内ラウンド
  5. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告
  6. 事例検証会、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等
  7. 院内全死亡例についての検証

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方</li><li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li><li>3. 職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告</li><li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染の予防に関すること。</li><li>2. 感染の情報の収集に関すること。</li><li>3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。</li><li>4. 防疫対策の確立に関すること。</li><li>5. その他感染対策についての重要事項に関すること。</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染対策に関する講演会（4 回） ※ 講演会未受講者はe-ラーニングシステムを活用し、受講している。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 職員が感染源になるウイルス感染症</li><li>・ 感染対策マニュアル改訂のポイント ～4 種ウイルス感染症～</li><li>・ 細菌検査室によくある質問と検体提出時のお願い</li><li>・ 本院における感染対策：up-to-date</li></ul></li><li>2. 各部署との勉強会（4 回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 産科婦人科 ESBL産生菌と産科感染</li><li>・ 耳鼻咽喉科 耐性菌・抗菌薬について、手指衛生、内視鏡・ユニットの管理方法など</li><li>・ 医事課 感染経路別予防策、インフルエンザ患者発生時の対応、就業制限について</li><li>・ 地域医療連携センター 感染経路別予防策、インフルエンザ患者発生時の対応、就業制限について</li></ul></li><li>3. 新規採用者研修（10 回）</li></ol>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部、インфекションコントロールチームでの検討、現場へのフィードバックを行う。
  2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が医事課・感染制御部へ報告する。CIC は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。
  3. 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策の推進を図る。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 第4回医療安全管理・感染対策講演会 特定機能病院承認要件見直しに伴う医薬品安全管理体制について</li><li>2. リスクマネージャー会議（第10回）アドバンスドセミナー 医薬品の副作用と医療過誤</li><li>3. 2017年1月19日 17時から20分間 周産母子センター看護師 「周産母子センターで使用する薬剤について」</li><li>4. 2016年6月6日 14時から30分間 2東病棟看護師 「ハラヴェンについて」</li><li>5. 2016年7月29日 13時から90分間 看護部 「抗菌薬の種類と薬理作用」</li><li>6. 2016年11月16日 17時30分から45分間 医療従事者 「簡易懸濁法について」</li><li>7. 2017年2月 15時30分から15分間 医療従事者 「褥瘡の外用薬について」</li><li>8. 2017年3月23日 17時30分から20分間 医療従事者 「がん治療と食事の工夫」</li></ol></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 (有・無)</li><li>・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医薬品の採用</li><li>2. 医薬品の購入</li><li>3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項</li><li>4. 部署における麻薬の運用</li><li>5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li><li>6. 病棟における医薬品の管理</li><li>7. 外来における医薬品の管理</li><li>8. 手術部の医薬品管理</li><li>9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集、提供等）に関する事項</li><li>10. 救急部門・集中治療室</li><li>11. 輸血・血液管理部門</li><li>12. 生命維持管理装置領域</li></ol></li></ul>	

- 13. 臨床検査部門
- 14. 画像診断部門
- 15. 他施設との連携
- 16. 事故発生時の対応
- 17. 教育・研修に関する事項

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：  
「医薬品の安全使用のための業務手順書」の第九章「医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い（収集、提供等）に関する事項」項目4「医薬品の安全管理」に医薬品安全管理責任者の業務として未承認・適応外・禁忌等に該当する処方を含む情報の収集、その他の医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施及び職員による当該方策実施を徹底することを定め、医薬品安全管理責任者が指名した担当者を中心に医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認、未承認薬、適応外、禁忌等に該当する使用方法の調剤時等における把握と処方した医師に対する処方の必要性やリスク検討の有無、処方の妥当性等の確認、および処方医師等に対する処方の変更等の提案の実施と医薬品安全管理責任者への報告など実施し、その結果を疑義照会として毎月開催される医療安全管理委員会に報告するとともに、警鐘事例を毎月開催されるリスクマネージャー会議にて紹介し全病院に周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</li><li>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</li><li>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</li><li>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</li><li>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</li><li>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</li><li>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li><li>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li><li>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li><li>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li><li>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li><li>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li><li>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li></ul></li></ul>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集  
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。

(注) 前年度の実績を記入すること。



(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	④・無								
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④（6名）・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室の担当者に PMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度 ・緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 調剤時や病棟業務において未承認を含むその使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方の変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="172 1227 1276 1384"><tr><td>（所属： 薬剤部， 職種：薬剤師 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr></table>		（所属： 薬剤部， 職種：薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属： 薬剤部， 職種：薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無								
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ④・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p>									
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	④・無								
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の記載内容の確認については、毎月 1 回開催される医療情報監査専門部会にて、一次監査（量的監査 [入院診療計画書・経過記録・手術記録・インフォームドコンセント・死亡診断書]）、二次監査（診療録チェックシートによる医師のピアレビュー）の結果および改善策を審議し医療情報委員会へ報告する。3 ヶ月毎に開催される医療情報委員会にて診療録改善計画について審議し指導をおこなう。</p> <p>指導の主な内容は下記について病院連絡会議にて報告、指導を実施する。</p>									

1. 入院診療計画書、退院時サマリ 100%作成維持
2. インフォームドコンセント、説明書・同意書、説明記録の共通様式での記載
3. 経過記録、手術記録の記載率の向上
4. 研修医指導医の承認 100%

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

①・無

- ・所属職員：専従（4）名、専任（0）名、兼任（4）名
  - うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名
  - うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名
  - うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（0）名
- （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること
- ・活動の主な内容：
  1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関する事。
  2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関する事。
  3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関する事。
  4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関する事。
  5. 患者からの医療に係る相談に関する事。
  6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関する事。

（入院患者の全死亡例報告の検証を含む）

  7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関する事。
  8. 医療安全のための教育・研修に関する事。
  9. 医療安全管理マニュアルに関する事。
  10. 医療安全の確保の資する診療内容のモニタリングに関する事。（深部静脈血栓症について）
  11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関する事。
  12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関する事。
  13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関する事。

上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知するようにしている

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（①・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（①・無）
- ・活動の主な内容：
 

平成28年度は部門及び委員会の設置並びに規程及び標準業務手順書の整備を行った。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 活動の主な内容：  
平成28年度は部門及び委員会の設置並びに規程及び標準業務手順書の整備を行った。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・ 無

- ・ 監査委員会の開催状況：年0回
- ・ 活動の主な内容：  
・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有 ・  無 )
- ・ 委員名簿の公表の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 公表の方法：本院ホームページに掲載

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院 医療安全管理 部長	○	医療安全管理識 見者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
大久保 哲	宮崎産業経営 大学法学部		法律に関する識 見者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
藤久保亜希	宮崎市子育て 支援センター		医療を受ける者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有 ・ 無	
				有 ・ 無	
				有 ・ 無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 237 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 84 件（3b 以上）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
入院患者の院内死亡事例については、毎週 1 回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会で審議している。  
特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象（3b 以上）についても同様に、毎週 1 回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ））・（無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ））・（無）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
宮崎大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項により、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
  1. 医療安全管理に関する講演会（4 回）
    - 第1回 医療機器を安全に使用するために
    - 第2回 医療事故からの学び
    - 第3回 「『決められない』患者さんに対するインフォームド・コンセント取得
    - 第4回 特定機能病院承認要件見直しに伴う医薬品安全管理体制について※ 講演会未受講者はe-ラーニングシステムを活用し、受講している。
  2. 各部署との勉強会（1 回）
  3. 新規採用者研修（10 回）

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：平成 28 年度九州・沖縄地区 医療安全に関するワークショップ（平成 28 年 11 月 17 日）

医療安全管理責任者（兼：医療機器安全管理責任者）：第 29 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会（平成 28 年 5 月 31 日）、第 29 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会（平成 28 年 11 月 17、18 日）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構による、病院機能評価を平成25年1月21日から1月23日の期間で受審した。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションシートを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。  診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、がん診療チーム、緩和ケアチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。  手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。	